

第7章 文化スポーツ

- 1 文 化 国 際
- 2 ス ポ ー ツ

文化スポーツ

1 文化国際

(1) 文化事業の実施

市民文化の向上、文化活動の推進、本市からの文化の発信等を目的に、各種文化事業を実施している。

また、市と市民等が協働で文化を振興し、心の豊かさが実感できるまちづくりを推進するとともに、市民力と英知を結集し、郷土に愛着を感じ、地域の内外に誇れる前橋の文化を創造するため、平成27年4月、前橋市文化振興条例を施行した。そして、本条例に基づき、文化の振興に関する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的に、令和3年3月、前橋市文化振興基本方針を策定した。主な文化事業は以下のとおり。

ア アーツカウンシル前橋

前橋市文化振興条例第13条に基づき、本市の文化行政を推進する新たな仕組みとして、行政と一定の距離を置き、文化芸術の専門家による調査、分析等を行うアーツカウンシルの仕組みを導入し、文化行政の専門性、透明性及び公正性を確保するため、アーツカウンシル前橋を設置し、平成30年度から運営を開始した。

令和7年度は、アーツカウンシル前橋による奨励金事業を実施し、11件の申請があり、8件を採択した。

イ 前橋市民芸術文化祭

本市の芸術文化の振興・充実を図ることを目的として実施する。市と前橋市文化協会の共催による、文化協会所属部会及び支部の発表会。令和7年度は約17,000人が参加した。令和7年度で48回目。

＜内容＞ 音楽・美術などの分野における舞台・展示発表など

＜時期＞ 例年4月から3月にかけて開催

＜場所＞ 市民文化会館等

(2) 文化施設の管理・運営

市民に芸術文化の鑑賞や活動の場を提供し、本市芸術文化の普及振興に努めるとともに、施設の管理を行う。

ア 前橋市民文化会館

所 在 地	前橋市南町三丁目62番地1	
総 工 事 費	約63億円	
規 模	〔敷地面積〕 25,705.66㎡、〔延床面積〕 13,866.17㎡	
構 造	鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋造 地下1階、地上4階	
設 備	大ホール	1,200席（車椅子対応席12席）、車椅子スペース8席、親子席6席 音楽的音響効果を重点とした多目的ホール 音響可変装置、オーケストラピット、迫りなどを装置 ワンフロア・ワンスロープ型式
	小ホール	600席（車椅子対応席32席） 演劇、能楽、邦楽、室内楽、講演等 音響反射板、演劇効果設備、映写設備等を設置、演劇、講演等に適した明瞭度のよいホール
	展示ホール	大展示ホール（669.28㎡）、小展示ホール（190.00㎡）
	市民プラザ（620.53㎡）、市民ロビー（211.40㎡）、リハーサル室（2室）、練習室（1室）、応接室（1室）、会議室（大・中・小）（5室）、授乳室、前橋空襲と復興資料館（約175㎡）	
駐 車 場	約400台	

① 建設工程

基本設計 昭和55年3月完了
 実施設計 昭和55年9月完了
 建設工事 昭和55年12月～昭和57年8月
 起工式 昭和56年1月17日
 上棟 昭和57年4月8日
 開館 昭和57年11月3日

② 運営

施設の管理運営及び文化事業を指定管理者として公益財団法人前橋市まちづくり公社に委託している。

③ 施設の利用状況

(令和7年度)

施設名	利用日数	利用人数	開館日数	日数による稼働率
大ホール	231 日	128,203 人	268 日	86.2 %
小ホール	218	45,163	263	82.9
リハーサル室(2室)	445	14,769	531	79.6
練習室	193	2,543	284	68.0
応接室	93	492	284	32.7
大展示ホール	184	24,910	275	66.9
小展示ホール	175	13,815	281	62.6
会議室(5室)	1,145	19,442	1,420	80.6

※ 稼働率は、利用日数を開館日数で除したもの。

④ 事業内容

市民の芸術文化への要望に対応するため、次の指定管理事業を実施した。

区分	事業数	人数
クラシック	18事業	9,371人
ポピュラー	7事業	6,903人
古典芸能	2事業	1,932人
バレエ	2事業	833人
演劇・ミュージカル	2事業	4,915人
その他	8事業	5,491人
合計	39事業	29,445人

⑤ ネーミングライツ導入

施設愛称名	昌賢学園まえばしホール
ネーミングライツスポンサー	学校法人昌賢学園(前橋市元総社町152番地)
愛称使用期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで(5年間)

イ 前橋市民文化会館大胡分館

所 在 地	前橋市大胡町15番地1	
総 工 事 費	約19億7千万円	
規 模	〔敷地面積〕 3,640.58㎡、〔延床面積〕 2,956.17㎡	
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階（一部4階）	
設 備	ホール	483席（車椅子対応席2席分）、親子席5席
	ギャラリー（64㎡）、展示室、ロビー、ホワイエ、2階各施設	
駐 車 場	60台	

① 建設工程

基本設計	平成5年3月完了
実施設計	平成5年12月完了
建設工事	平成5年12月～平成7年1月
開 館	平成7年3月4日

② 運営

施設の管理運営及び文化事業を指定管理者として公益財団法人前橋市まちづくり公社に委託している。

③ 施設の利用状況

（令和7年度）

施 設 名	利用日数	利用人数	開館日数	日数による稼働率
ホール	92 日	13,407 人	308 日	29.9 %
ギャラリー	142	925	308	46.1

④ 事業内容

市民文化会館の機能を十分に発揮し、市民の芸術文化への要望に対応するため、次の指定管理事業を実施した。

区 分	事 業 数	人 数
演劇・ミュージカル	4事業	1,356人
古典芸能	2事業	402人
合 計	6事業	1,758人

⑤ ネーミングライツ導入

施設愛称名	大胡シャンテ マルエホール
ネーミングライツスポンサー	株式会社クスリのマルエ（前橋市樋越町83）
愛称使用期間	令和5年4月1日から令和7年3月31日まで（2年間）

ウ 前橋市芸術文化れんが蔵

所 在 地	前橋市三河町一丁目16番27		
規 模	〔敷地面積〕 1,670.88㎡（仮換地面積）、〔延床面積〕 226.32㎡		
構 造	煉瓦造をＲＣ壁により耐震補強 地上１階		
設 備 ・ 特 徴	柱	縦方向約５ｍ間隔に４本 横方向柱間隔約４ｍ 壁から約2.5ｍ 合計８本	
	楽屋等なし、天井高約３ｍ、備品類保管用倉庫１棟、多目的トイレ１基（外付け）		
駐 車 場	施設南側18台（身障者用１台含む）		

① 事業の経過

平成18年度 「都市景観推進事業用不動産」として前橋市土地開発公社が土地建物取得。

平成18～22年度 前橋工科大による耐震診断、文化財保護課による文化財調査、県内事例視察、庁内ワーキンググループによる利活用の検討等を実施。

平成23年度 前橋工科大との共同研究を実施。利活用に向けたニーズ調査や耐震改修方法などを研究。

平成24年度 前橋市土地開発公社より前橋市取得。耐震改修設計。

平成25年度 耐震改修工事実施。庁内PT等の検討により、平成26年度以降の所管課が文化国際課に決定。

平成26年度 展示、演劇、音楽発表など各種文化団体により試用を開始。外構工事実施。

平成27年度 平成27年6月1日設置条例施行、供用開始。

平成30年度 平成30年4月より、施設の利用申込業務を公益財団法人前橋市まちづくり公社に委託。

② 施設の利用状況

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
利 用 件 数	82 件	90 件	105 件
利 用 者 数	4,679 人	6,415 人	8,076 人

エ 水と緑と詩のまち前橋文学館

所 在 地	前橋市千代田町三丁目12番10号
総 工 事 費	約18億円
規 模	〔敷地面積〕 1036.53㎡、〔延床面積〕 2153.31㎡
構 造	鉄筋コンクリート造5階建て
設 備	朔太郎展示室、企画展示室、資料閲覧室、収蔵庫、映像展示室、ムットーニシアター、ミュージアムショップ、ホール（80席）、オープンギャラリー、研修室（20席）、朔太郎記念館（別棟）

① 建設工程

建 築 工 事 平成4年1月～平成5年5月

展 示 工 事 平成4年9月～平成5年6月

建築工事着工 平成4年1月28日

建築工事完成 平成5年5月15日

展示工事完成 平成5年6月30日

開 館 平成5年9月 3日

新収蔵庫建築工事 平成29年12月4日～平成30年8月13日

② 運営

平成25年度から平成27年度までは施設の管理運営及び文化事業を指定管理者として一般財団法人前橋市文化スポーツ振興財団に委託していたが、指定管理の満了を契機に管理方法を見直し、平成28年度から市直営として管理を行っている。

③ 施設の利用状況 (令和7年度)

朔太郎展示室・企画展等観覧者数	43,143人
ホール、研修室使用者数	4,321人
萩原朔太郎記念館観覧者数	10,140人
合 計	57,604人

④ 事業内容

「日本近代詩のふるさと」と呼ばれる前橋が生んだ詩人・萩原朔太郎の業績を顕彰するとともに、市民の幅広い芸術文化活動のひとつの拠点として、次の事業を実施した。

A 企画展示 (令和7年度)

事業名	会 期	会 場
第32回萩原朔太郎賞受賞者 最果タヒ展 愛を囁くのは世界の方で、 私たちはそれを二人で聞いている。 ここで、二人で真珠になろう。	6/7(土) ～ 9/21(日)	2階企画展示室
『猫町』を包む	6/28(土) ～ 9/7(日)	3階オープンギャラリー
夢の明るい鏡 三浦雅士と1970年代の輝き - 「ユリイカ」 「現代思想」の軌跡	10/4(土) ～ 1/25(日)	2階企画展示室
わたしが描く朔太郎の世界展	1/4(日) ～ 1/20(火)	3階オープンギャラリー
悪筆。文字書体をなさず。 冷汗冷汗。 - 萩原朔太郎と文字	3/21(土) ～ 5/24(日)	2階企画展示室
共催展「よみぐすり、処方します。処方箋文庫」	3/20(金) ～ 5/17(日)	3階オープンギャラリー

B 企画展示関連イベント (令和7年度)

事業名	イベント内容
オープニングイベント 「高校生による朗読会-好きだと思う瞬間、流れ星になる」	第32回萩原朔太郎賞受賞者「最果タヒ」展の開幕記念イベント。地元高校生と当館特別館長の萩原朔美が、最果タヒの受賞作『恋と誤解された夕焼け』に収録された「流れ星の詩」「つらら」「天国は秋の季節」「川じゃない」など13篇と、萩原朔太郎の代表作「竹」「廣瀬川」「ここ」など7篇を朗読。朗読作品は出演者自らがセレクト。出演校は前橋高校演劇部、前橋東高校放送部、市立前橋高校演劇部、共愛学園高校放送委員会の計7人。
朗読会 「愛を囁くのは世界の方で、私たちはそれを2人で聞いている。」	劇団「マームとジプシー」など舞台を中心に国内外で活躍する俳優の青柳いづみが、最果タヒの詩の世界観を声で表現。最果と青柳が選んだ「川じゃない」「彗星の詩」「翼をください」「愛になる」など受賞作12篇と「あとがき」を朗読。アフタートークでは、青柳と当館特別館長の萩原朔美が対談。最果タヒの詩や朗読の魅力などについて語り合った。

事業名	イベント内容
朗読会 『恋と誤解された夕焼け』全43篇イッキ読み！！	最果タヒの受賞作に収録された全43篇を、当館特別館長の萩原朔美と当館活動に関わる市民有志が朗読。出演は「芽部」「演劇プロデュースとろんぶ・るいゆ」「劇団ザ・マルク・シアター」「前橋文学館友の会 楽しい朗読講座」の4団体計17人。朗読に加え、出演者一人ひとりが最果タヒの詩に関するトークを展開。衣装はトップス白、ボトムス黒のモノトーンに統一した。
えっ！？本がこんなにちっちゃいニャ！ ～豆本をつくるワークショップ～	群馬県立女子大学との連携企画。奥西麻由子准教授と、アートマネジメントゼミの生徒が講師となり、主人公が異世界・異空間に迷い込むストーリーの萩原朔太郎『猫町』にちなみ、普通ではない大きさの本＝豆本を作るワークショップを行った。
『猫町』を読む 河崎早春×萩原朔美	萩原朔太郎の短編小説『猫町』を、俳優・朗読家の河崎早春（さはる）氏が朗読し、アフタートークとして、当館特別館長萩原朔美との対談を行った。
リーディングシアターvol. 26「イエスタデイ」	清水邦夫氏による反戦がテーマの戯曲「イエスタデイ」を上演。
前橋文学館開館記念イベント 寺山修司を読む「まんだら」	開館32周年記念し、寺山修司の戯曲「まんだら」のリーディングシアターを開催。出演は末唯mie氏、当館特別館長萩原朔美、雨宮潤氏、雨宮友美氏、大島政昭氏、大島加代子氏、ナカジマタカヒロ氏。
対談：三浦雅士×萩原朔美 1970年代から振り返る－ ネット社会における雑誌づくりの可能性を探る	「夢の明るい鏡」展初日に三浦雅士氏（文芸評論家、「ユリイカ」「現代思想」元編集長、日本芸術院会員）と萩原朔美特別館長による対談。谷川俊太郎や朔太郎特集をはじめ、当時「ユリイカ」で手掛けた内容を振り返り、年齢を重ねて舞踊や思想研究を進めたことで朔太郎の論考「詩と音楽の関係」の意義を再確認したことなどを明らかにした。
対談：三浦雅士×松浦寿輝 昭和時代、最後の20年 今再びエディターシップが問われる時代	三浦雅士氏と松浦寿輝（小説家・詩人・批評家、東京大学名誉教授、日本芸術院会員）による対談。1970年代の思想状況から母子関係、死の問題、編集の方法論まで、いま取り戻すべき「知」の力についてと時代を表現する編集の醍醐味などを語りあう、刺激的な内容となった。
三浦雅士講演会 吉本隆明、澁澤龍彦、大岡信－ 朔太郎、賢治、中也の後に	1970年代、「ユリイカ」を支えた吉本、澁澤、大岡の3人のひとつの共通点として、3人とも小林秀雄の影響を強く受けていることや朔太郎、賢治、中也の共通点に触れた。また高階秀爾や、吉本の『言葉からの触手』『母型論』から、芸術・詩と批評について、その核心はなにかを解明する展開となった。
処方箋文庫展関連 制作秘話トークショー&よみぐすり朗読会	本展作家のKawasaki氏等が登壇し、展示の制作プロセスを語り尽くすトーク&朗読イベントを実施した。

C 収蔵資料貸出及び閲覧

- ・貸出 2件
- ・閲覧 12件

D 関連団体支援事業（前橋文学館友の会、朔太郎研究会ほか）

- ・朔太郎研究会研究例会 ほか

E 教育普及事業

- ・博物館実習生受入、小中学生・高校生職業体験受入、保育園児への出張前橋文学館（読み聞かせ）
- ・文学館友の会ボランティア養成講座、共愛学園前橋国際大学寄付講座、市民学芸員講座、明寿大学学習講座、出前講座

F その他

- ・年報の発行
- ・オリジナルグッズの販売

⑤ 萩原朔太郎に関する事業

A 萩原朔太郎賞

日本近代詩に多大な貢献を残した本市出身の詩人萩原朔太郎の業績を長く顕彰するため、萩原朔太郎の名を冠した文学賞を授与する。令和7年度で33回目。

＜受賞作品＞ 1 作品

＜正 賞＞ 萩原朔太郎像

＜副 賞＞ 100万円

＜令和7年度受賞＞ 大崎 清夏『暗闇に手をひらく』

B 朔太郎音楽祭

詩人萩原朔太郎は、自身でマンドリン曲を作曲するなどマンドリンと関わりが深いことから、朔太郎生誕120年を記念し、平成18年度に「前橋マンドリンフェスタ2006」を開催。平成19年度より「～マンドリンのまち前橋～ 朔太郎音楽祭」に名称を変更し、「マンドリンのまち前橋」を全国に情報発信。平成22年度には、5周年記念として独奏コンクールを実施した。平成29年度から市内アマチュア楽団に一般参加者を加え、高等学校ギター・マンドリン部などによる市民参加型の演奏会を実施し、また朔太郎の詩に作曲し発表している。令和7年度は、20周年記念として、萩原朔太郎作曲「A Weaving Girl」の独奏や、マンドリン以外の楽器を加えてマンドリンオーケストラ演奏を実施した。

C 朔太郎忌

萩原朔太郎の命日である5月11日に最も近い第2土曜日に、萩原朔太郎を偲ぶとともに、作品がもつ魅力と価値について考えを深め、文化の向上に寄与することを目的として実施している。令和7年度で第53回を迎えた。

D 萩原朔太郎記念館

敷島公園のばら園内で一般公開されていた萩原朔太郎生家の一部（書斎・離れ屋敷・土蔵）を、平成28年度に前橋文学館と広瀬川を挟んだ対岸にある河畔緑地に移築し、萩原朔太郎記念館として公開している。記念館敷地内には平成30年度に「屋根の上の猫」、令和2年度に「月に吠える犬」を設置。令和3年度には記念館離れ座敷内に「恐ろしく憂鬱なる」「蝶を夢む」に登場する蝶をモチーフとしたオブジェを設置した。

＜入 場 料＞ 無料

＜開館時間＞ 午前9時から午後5時まで（水曜日と年末年始は休館、他文学館休館日に準ずる。）

オ アーツ前橋

所 在 地	前橋市千代田町五丁目1番16号
総工事費	約15億円
規 模	[敷地面積] 約2,629.69㎡、[延床面積] 約5,517.38㎡
構 造	既設鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上9階建のうち、地下1階から地上2階までの部分
設 備	ギャラリー、プロムナード、エントランスホール、アーカイヴ、ショップ、カフェ、事務室、 収蔵庫

① 建設工程

基本設計業務 平成23年 3月～平成23年 4月
 実施設計業務 平成23年 4月～平成23年 7月
 建築工事 平成23年12月～平成24年10月
 建築工事着工 平成23年12月15日
 建築工事完成 平成24年10月31日
 開 館 平成25年10月26日

② 運営 市直営

③ 施設の利用状況

(令和7年度)

展覧会観覧者数	25,400人
総来館者数 (交流スペース、アーカイヴ、カフェ、ショップ、イベント含む)	96,444人

④ 事業内容

多くの市民にアーツ前橋の活動を理解してもらうために、魅力的な施設づくりを目指して、次の事業を実施した。

A 企画展

(令和7年度)

事 業 名	会 期	会 場
石田尚志 絵と窓の間	4/19(土)～ 6/22(日)	1階・地下ギャラリー
新収蔵作品展／コレクション＋ 女性アーティスト、それぞれの世界	7/19(土)～ 8/26(火)	1階・地下ギャラリー
ゴースト 見えないものが見えるとき	9/20(土)～ 12/21(日)	1階・地下ギャラリー
向井山朋子 Act of Fire	1/24(土)～ 3/22(日)	1階・地下ギャラリー

B 地域アートプロジェクト

- ・滞在制作成果展示（マームとジブシー）

C 教育普及

- ・あーつひろば
- ・アーツナビゲーター研修
- ・ロビーライブ

D その他の事業

- ・サポーター運営
- ・メンバーシップ運営

(3) 国際交流の推進

民間の国際交流活動の盛り上がりや、国際化に対する市民意識の高まりを背景に、多文化共生社会の実現を目標に各種事業を実施している。主な事業は以下のとおり。

ア 外国人相談窓口の運営（外国人生活相談事業）

前橋市国際交流協会と一体となって、相談窓口を運営。国際交流員や相談員が毎週2回、英語・中国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語に対応した相談窓口を、市庁舎2階に開設。メールでの相談受付も行っている。相談員の不在時や他の言語での対応が必要なときは、遠隔通訳タブレットを用いて対応している。

イ 日本語教室の開催

年間35回程度、7教室の日本語教室を開催。また、年間30回程度の日本語少人数レッスンも2教室開催。

ウ 外国人への生活情報の提供

前橋で生活する上で必要な情報を、前橋リビングガイドホームページにて、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、やさしい日本語で提供。

エ 前橋市国際交流協会との連携

本市の国際化及び国際交流の総合的な窓口である前橋市国際交流協会と連携し、民間レベルでの国際交流を推進する。

オ 国際交流員の配置

国際交流員（CIR）を文化国際課に1名配置し、地域の国際化をリードすべく、幅広い分野で活動。

＜主な業務内容＞

- ① 本市来賓の通訳や、海外から送付される文書の翻訳
- ② 外国人相談窓口での相談員
- ③ 前橋市国際交流協会や小中学校、民間団体などが実施する事業への協力
- ④ 地域住民の異文化理解のための交流活動への協力

カ 多文化共生のまちづくり

在住外国人との共生を推進するため、前橋市国際交流協会等と連携し、多文化共生事業の推進を図る。

(4) 都市間交流の推進

ア 海外姉妹・友好都市との交流

民間レベルの交流が深まり、イタリア・オルビエート市と友好都市提携を、アメリカ・バーミングハム市と姉妹都市提携を締結した。また、平成17年度には、旧大胡町の姉妹都市であったアメリカ・メナーシャ市と新たに友好都市提携を結び、友好関係を継続した。今後も姉妹都市・友好都市との交流を発展すべく、民間交流の促進を図っていく。

＜主な交流実績＞

- ① あかぎ大沼・白樺マラソンにバーミングハム市から選手参加
- ② メナーシャ市との中高生交流事業
- ③ バーミングハム市との高校生交流事業
- ④ アラバマ日米協会表敬訪問

＜令和7年度実績＞ あかぎ大沼・白樺マラソンにバーミングハム市から選手が参加した。

バーミングハム市から在アラバマ日本国名誉領事等を迎えて講演会を開催した。

イ 国内友好都市との交流

前橋への県庁誘致を決定づけた初代群馬県令・楫取素彦の出身が萩市であることが縁で、両市の交流が盛んになったことにより、前橋市制施行110周年・萩市制施行70周年を記念して、友好都市提携を締結した。観光、教育、文化、経済など各分野における市民交流活動を通じて、両市民の相互理解と親善を深める。

(5) 歴史文化遺産の活用

ア 歴史文化遺産の活用

平成 25 年度から 28 年度まで設置された「歴史文化遺産活用委員会（第 1 期・第 2 期）」の調査によって掘り起こされた、全国に誇れる歴史文化遺産を活用し、「歴史都市まえばし」の具現化に向け本市の魅力を発信するため、市内外からの誘客をはかる事業を実施する。

＜歴史文化イベントの実施又は運営補助＞

＜令和 7 年度＞

イベント名	開催日
前橋空襲一斉慰霊	8月5日（火）
前橋歴史観光ガイド	10月18日（土）から11月24日（月・祝）まで（全11コース）
新陰流流祖祭	11月8日（土）
大胡城・牧野氏まつり	11月24日（月・祝）

イ 前橋学における調査研究及び普及促進

「歴史文化遺産活用委員会」からの提言を踏まえ、歴史と文化に立脚して地域の諸問題を解決する学び（営み）である「前橋学」の確立と、「官・館・民・学」の連携による文化創造基盤づくりに向けて、様々な組織と連携し調査研究及び普及促進を図る。また、本市の歴史文化遺産研究を円滑に推進するため、シンクタンク的な役割を担う組織として平成 29 年度から 3 年間「前橋学センター」を設置した。

① 前橋学ブックレットの発刊

前橋の誇れる先人、すばらしい自然、埋もれた歴史のすべてを後世に語り継ぐため、研究者や専門家だけでなく市民自らが調査・発掘した成果をブックレットとして刊行し、市民の郷土愛醸成と全国への前橋の魅力発信を図る。令和 7 年度末までに全 44 号を刊行した。

＜令和 7 年度発刊＞

- ・第 41 号『萩原朔太郎生誕 130 年記念トーク スター経営者、朔太郎の孫と詩を語る』
松本大／萩原朔美／塚本直樹
- ・第 42 号『前橋藩士・遠藤鏑平と謹承』速水堅曹研究会編
- ・第 43 号『資料集 鈴木貫太郎・孝雄と前橋』前橋鈴木貫太郎顕彰会編
- ・第 44 号『前橋空襲・復興と戦争体験記録シリーズ 3 角田佳一の見た戦前・戦中・戦後』角田光利編

② 前橋学市民学芸員の養成及び活動促進

歴史と文化に立脚した地域づくりの担い手となる前橋学市民学芸員を養成するため、全 15 回の講義を受けた受講生を同学芸員として認定する「前橋学市民学芸員養成講座」を開講する。

また、認定を受けた前橋学市民学芸員に対し、史料整理や調査研究、歴史観光ガイド、偉人紙芝居の制作、イベント補助等の活動の場を提供し、それを補助する。

＜前橋学市民学芸員養成講座 開講実績＞

- ・累計認定者数 392 人（第 1 期～第 11 期）
- ・過去 5 年間の実績

年度	期数	期間	受講者数	認定者数
R2	第 8 期	令和 3 年度～延期	—	—
R3	第 8 期	令和 4 年度～延期	—	—
R4	第 8 期	令和 4 年 5 月 12 日（木）～9 月 15 日（木）	30	23 ※補講により認定となった第 7 期生 2 名を含む
R5	第 9 期	令和 5 年 5 月 11 日（木）～9 月 7 日（木）	28	20
R6	第 10 期	令和 6 年 5 月 9 日（木）～8 月 29 日（木）	30	27 ※補講により認定となった第 9 期生 1 名を含む
R7	第 11 期	令和 7 年 5 月 8 日（木）～8 月 2 日（木）	30	27

ウ 前橋空襲と復興資料館の開館

戦争体験者が減少する中で、「前橋空襲と復興」の実情と、平和を希求する市民の思いを風化させず後世へ伝承するため、昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）2階に、「前橋空襲と復興資料館」を開館した。

＜令和7年度実績＞

令和5年度中に着手した設計に基づき、施工を実施し、展示制作に加え、展示室の人員配置やパンフレット及び図録の製本等を行い、令和7年4月28日に開館した。

所 在 地	前橋市南町三丁目6番地1（前橋市民文化会館2階）
総工事費	約1億5千万円
規 模	展示室175㎡ 事務室18.3㎡ 収蔵庫16.9㎡ 計210.2㎡
設 備	展示室 事務室 収蔵庫
駐 車 場	専用駐車場7台

2 スポーツ

(1) 市民体育・スポーツ

ア スポーツ大会

(令和7年度)

No.	大会名	開催日	エントリー数
1	第44回あかぎ大沼・白樺マラソン大会	8月31日(日)	1,810人
2	まえばし赤城山ヒルクライム大会2025	9月28日(日)	2,376人
3	赤城山トレイルリレーフルマラソン2025	6月1日(日)	463人
4	赤城山トレイルランニングレース2025	7月27日(日)	706人
5	赤城山100ウルトラマラソン	9月28日(日)	221人
6	第29回前橋市民軽スポーツフェスティバル	11月16日(日)	807人
7	前橋・高崎連携スポーツ交流第27回デューズハースレボール大会	2月22日(日)	342人
8	市民スポーツ祭	4月20日(日) (競技初日)	10,779人
9	地区市民運動会(23地区中17地区開催)	地区ごとに異なる	24,359人

イ スポーツ教室

<指定管理者> 公益財団法人前橋市まちづくり公社

<コース数> 262コース

<参加者数> 10,402人(延べ70,066人)

(2) スポーツ施設等一覧

(令和7年度)

No.	施設名	所在地	利用人数	管理
1	ヤマト市民体育館前橋(前橋市民体育館)	上佐島町460-7	142,736	指定管理
2	しんしん大渡体育館	大渡町2-3-11	30,496	〃
3	日吉体育館	日吉町2-17-12	29,126	〃
4	株式会社 志村工業 大胡体育館	河原浜町478	21,526	〃
5	じょぶJOBジョブズ宮城体育館	鼻毛石町1561	81,393	〃
6	前橋市民プール	上細井町2192	22,511	〃
7	しんしん大渡温水プール・トレーニングセンター	大渡町2-3-11	133,258	〃
8	前橋市宮城プール	鼻毛石町1561	0	〃
9	防災のHoshino 三俣テニスコート	三俣町3-1	19,896	〃
10	ロード宮城総合運動場	鼻毛石町2270-1	51,868	〃
11	ザ・野菜 粕川総合グラウンド	粕川町西田面189	34,556	〃
12	富士見総合グラウンド	富士見町皆沢315-1	9,582	〃
13	Fuji Language School 前橋市王山運動場	総社町1-8-2	22,937	〃
14	コーエィ前橋フットボールセンター(下増田運動場)	下増田町277	153,353	〃
15	ベースボールパークファースト北部運動場	上細井町2127-4	20,554	〃
16	前橋市清里方面運動場	青梨子町591	8,409	〃
17	粕川西部運動場・高橋建築設計事務所 元気広場	粕川町女淵1500-2	2,825	〃
18	登利平 桃ノ木川グラウンド	東片貝町417-4	23,791	〃
19	OOHATA 千本桜野球場	苗ヶ島町2516-1	7,697	〃
20	前橋市ローズタウンサッカー場	富田町1674-8	77,116	〃
21	前橋公園の各公園施設の一部(中央緑地)	石倉町4,5丁目地内	9,836	指定管理

No.	施設名	所在地	利用人数	管理
22	利根川敷島緑地	敷島町地内	38,211	〃
23	利根川大渡緑地	総社町総社地内	11,894	〃
24	前橋総合運動公園	荒口町437-2	118,140	〃
25	大野工業大胡総合運動公園	堀越町473-4	45,824	〃
26	旧前橋東商業高校	上大屋町105	34,873	業務委託
合 計			1,152,408	-

(3) スポーツ関係組織

ス ポ ー ツ 推 進 審 議 会	12名（うち市民公募2名）
ス ポ ー ツ 推 進 委 員 会	107名
ス ポ ー ツ 協 会	スポーツ団体(38)、地区体協(22)、中体連、高体連 計62団体
ス ポ ー ツ 少 年 団	14種目、112団、団員2,435人、指導者424人、スタッフ203人

